

豊かな日本をどうやってつくるか

— 地方から考える —

2010年6月

島根県知事 溝口 善兵衛

- 1 本書の本文（P 1～31）は、私が平成22年1月14日に立命館大学の「知事リレー講義」でおこなった講演を、加筆・修正して再構成したものです。
- 2 「コラム」（P 33～49）は私がこれまでに書いた小文を掲載したものです。
- 3 「付録」（P 51～64）の「自立と分散で豊かな日本を」は私も参加した11県知事ネットワークが作成し、本年5月20日に発表した「政策提言」であり、参考のために本書にそのまま添付したものです。

はじめに

2007年4月に知事に就任した頃のことです。あるテレビ番組で各県の位置を当てるクイズが行われました。残念なことに島根県は、どこにあるのかを知っている人が最も少ない県ということになりました。

島根の位置は、全国の方になかなかわかりづらいのですが、最近では、テレビドラマや映画のロケ地としてたびたび登場するようになり、関心をお持ちの方も次第に増えてきたように思います。島根には、縁結びの出雲大社、世界遺産の石見銀山、城下町松江、山陰の小京都津和野、雄大な自然の隠岐など、県内各地に魅力的な名所・旧跡が数多くあります。

私は高校卒業まで、島根県の西部の益田市で育ちました。大学卒業後は大蔵省に入り、長く公務員として生活し、ほぼ40年ぶりに島根県に戻り、平成19年に知事となりました。

公務員の時代には主に東京で働き、ドイツ、アメリカでも合計8年勤務しました。仕事や旅行を通じ日本の内外を見てきて、島根の良さがだんだんわかってきました。そして今、郷里に住んでみて、あらためて島根は実に住みやすい、いいところだ、と感じております。

島根県は人口が減っている、いわば田舎の県です。東京の友人などから「人口が減り、財政も大変でしょう」とよく言われます。しかし、そのたびに、「東京のような大都市がさらに拡大することが、日本にとって良いことなのだろうか」と思うのです。

そこで私は、島根の知事をしながら、なぜ、島根の発展が遅れたのか、昔から遅れていたのか、東京が発展したのはなぜなのか、考えてきました。

東京は若者が多く集まりながら、出生率が全国一低くなっています。つまり子育てが難しい地域になっています。では、なぜ、東京は子育てが難しい地域になったのか、日本の大都市は、欧米の大都市と比べて緑が少ないのはなぜなのか、雑然として殺伐としたコンクリート・ジャングルのようになっているのはなぜなのか、考えてきました。

真の意味での「豊かさ」とはどのようなものか、日本が、国全体として豊かな国になるということはどういうことなのか、「豊かさ」を求めていく過程の中で、なぜ、地方を大事にすることが必要なのか。このことをこれからお話したいと思います。

目 次

第一章 都市化と国の発展	1
第二章 国の政策で進んだ大都市化	9
第三章 地方が果たす役割	21
第四章 地方の発展と豊かな日本	27
おわりに	31
[コラム] 島根から伝える「地方の世界」	33
1. 古代出雲 —『古事記』や『風土記』の世界	34
2. 島根のこころとからだのリフレッシュスポット	36
3. 美保関 <small>みほのせき</small> の古刹と灯台	39
4. 山あいの古城の町 — 月山山麓 <small>がっさん</small>	41
5. 松江 — 北堀町 <small>どう</small> の鑿	44
6. あなたも島根で暮らしてみませんか?	46
7. 地方から日本を考える	47
8. 不昧公の時代と現代 —『松江藩の財政危機を救え』を読む	47
[付録] 政策提言「自立と分散で豊かな日本を」	51
— 大都市と地方のこれからについて — 「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」による提言 青森県、山形県、石川県、福井県、山梨県、長野県、 奈良県、鳥取県、島根県、高知県、熊本県の11県の知事が 共同で作成し、平成22年5月20日発表	

